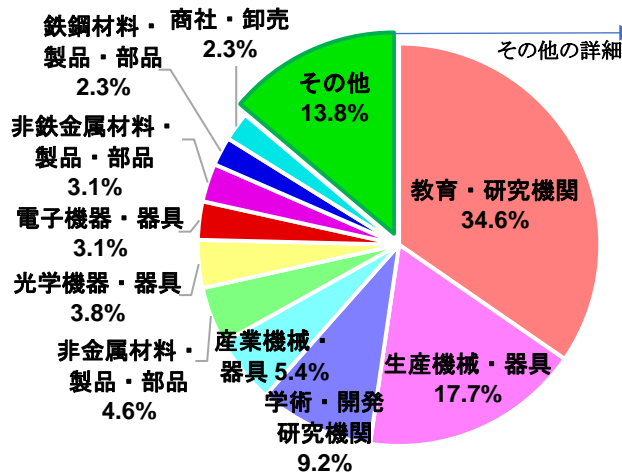


**SCNet** 砥粒加工学会専門委員会「セレンディピティ創造科学ネットワーク」  
 【セレンディピティの実態に係る全体アンケート調査結果】( I / 集計図表編)

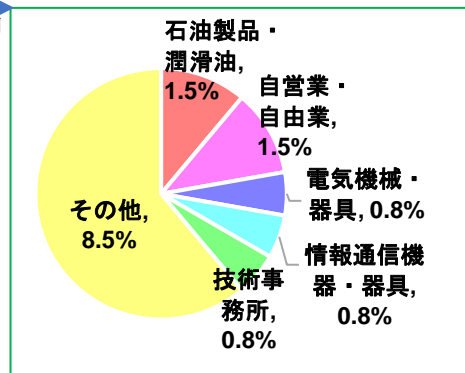
(アンケート調査実施期間: 令和6年2月26日から約1ヶ月間)

回答者の属性について (130 件の回答)

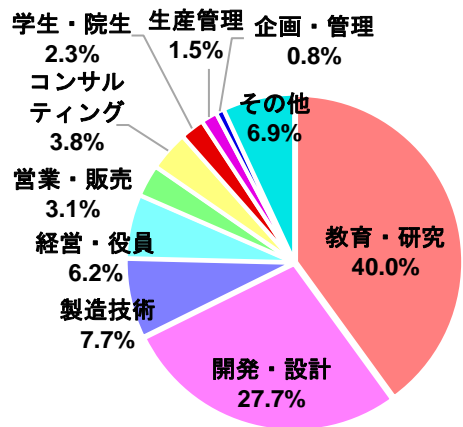
【業種構成】



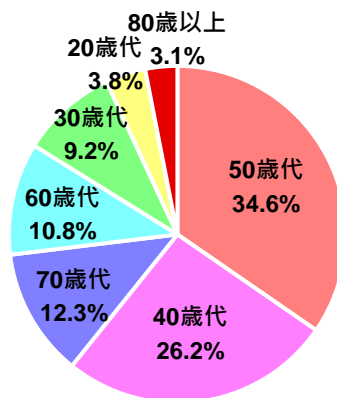
(参考) 会員数(R5.12.31 現在)  
 名誉会員20名 正会員784名  
 学生会員109名 賛助会員166社



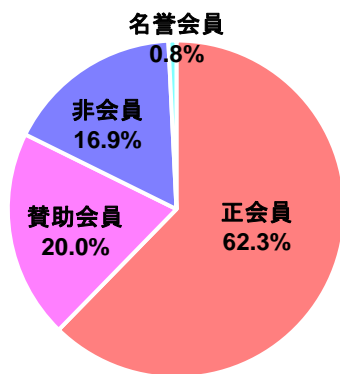
【職種構成】



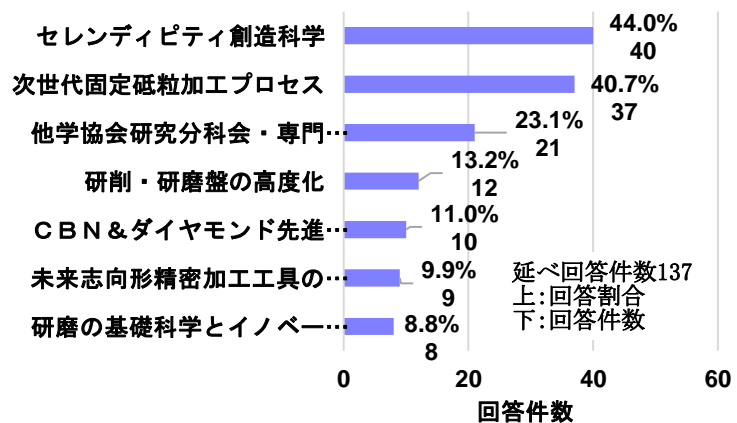
【年齢構成】



【会員資格構成】

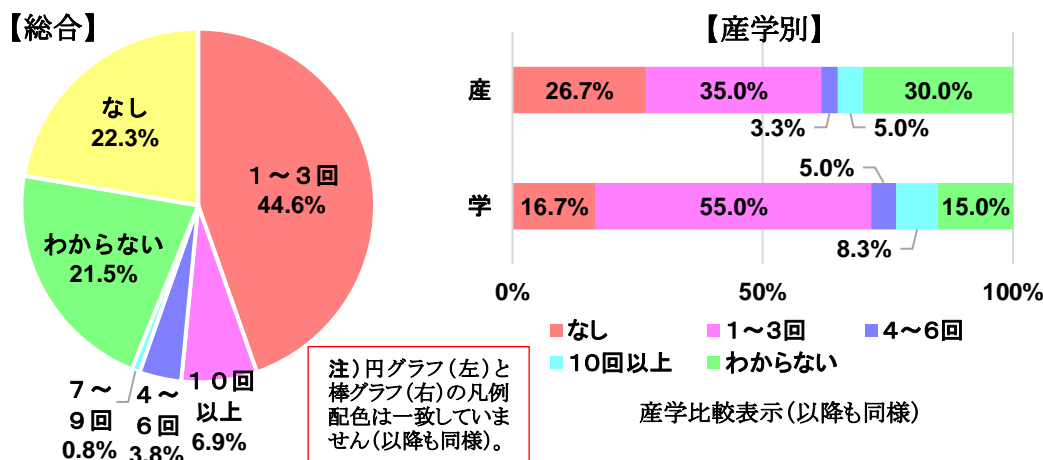


【所属専門委員会等構成】(複数選択可)

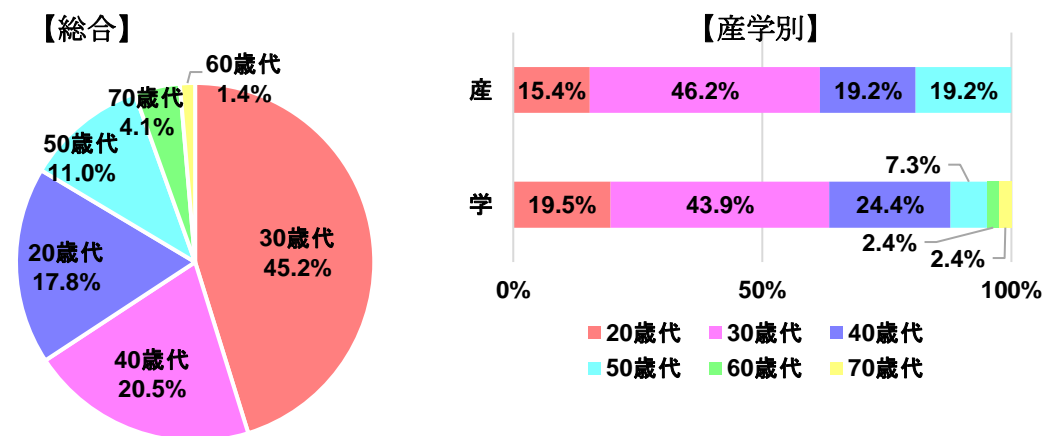


質問(1) セレンディピティ\*1の内容について(産学の比較表示)

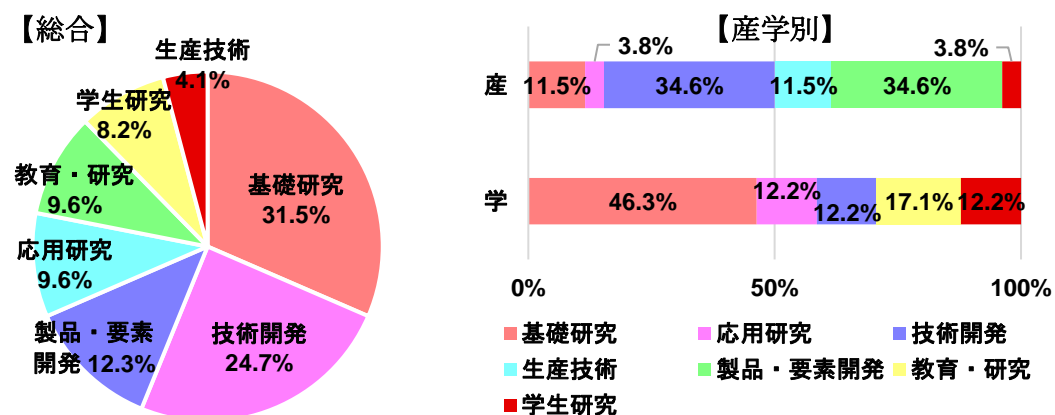
(1-1) 現在までに遭遇したセレンディピティの回数について(130件の回答)



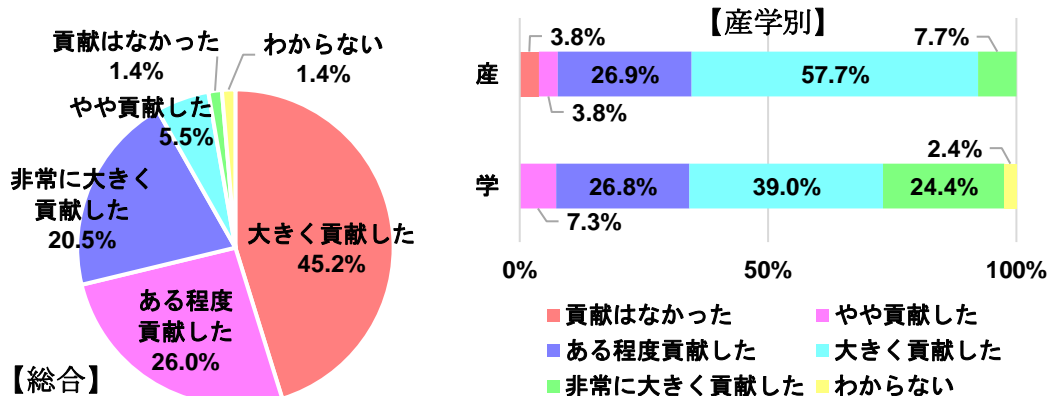
(1-2) 回答対象のセレンディピティに遭遇した時の年齢について(73件の回答)



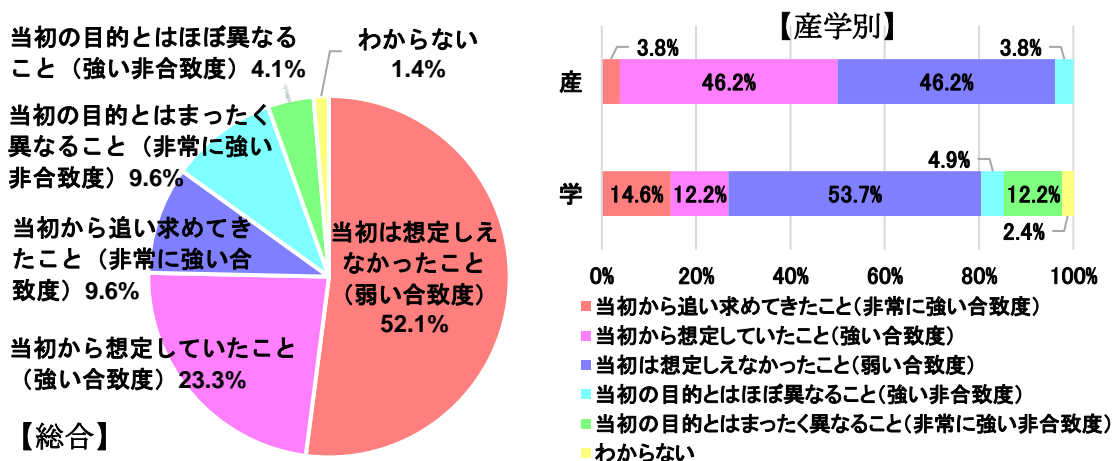
(1-3) 回答対象のセレンディピティに遭遇した時の職務(業務)について(73件の回答)



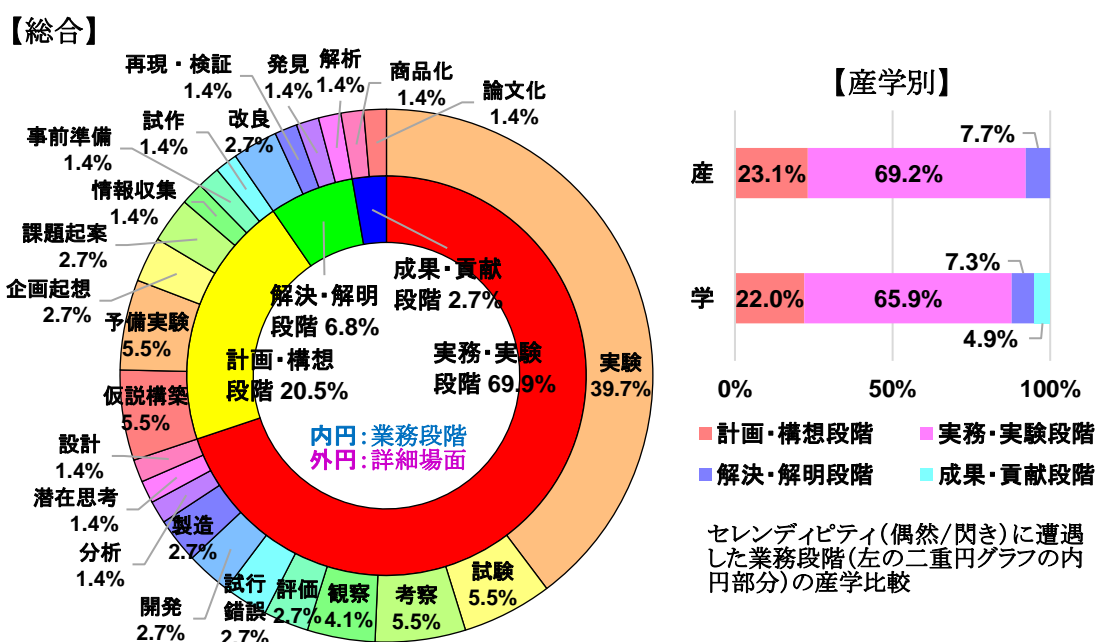
(1-4) 回答対象のセレンディピティに遭遇した職務の達成度(貢献度)について(73件の回答)



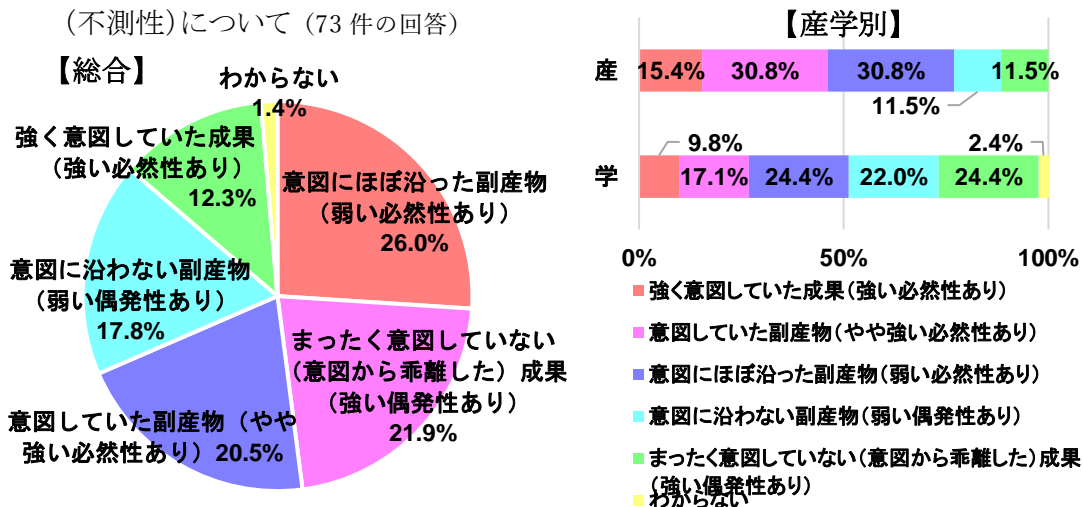
(1-5) 回答対象のセレンディピティに遭遇した職務(業務)の当初目標(目的)と、偶然/閃きの結果として得られた成果(貢献)との間の合致度(目的指向性)について(73件の回答)



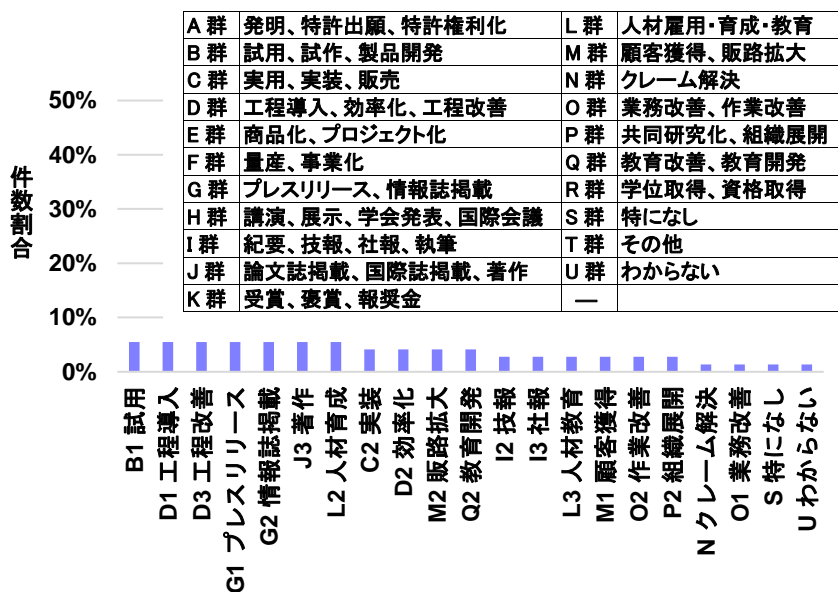
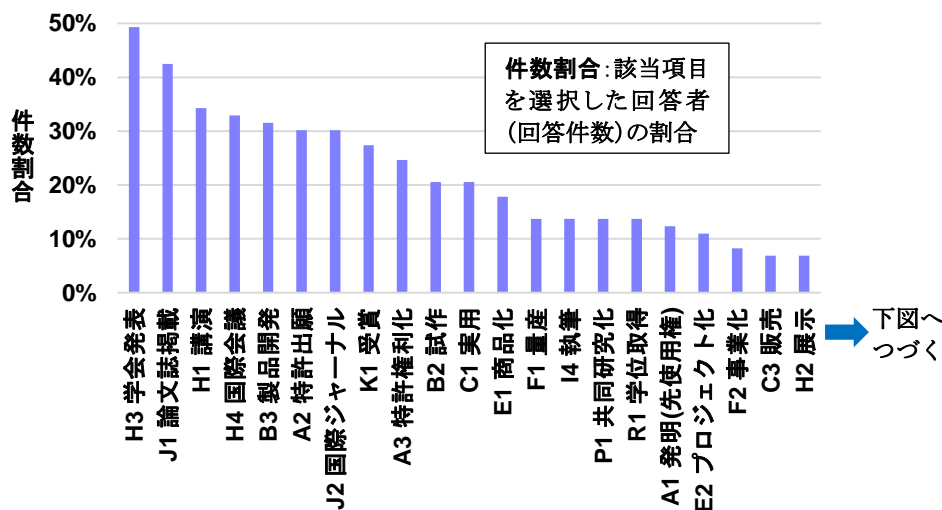
(1-6) 偶然/閃きに遭遇した職務(業務)の段階(ステージ)と場面について(73件の回答)

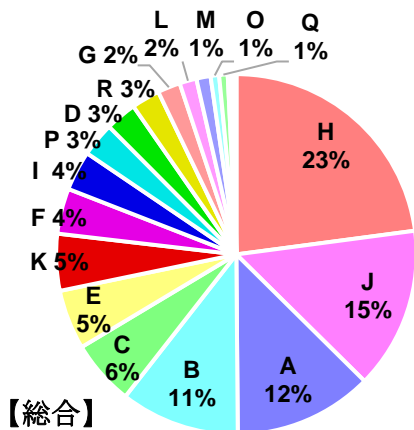


(1-7) 偶然/閃きの結果として得られた成果(貢献)の意図性(必然性)、あるいは偶発性(不測性)について (73 件の回答)



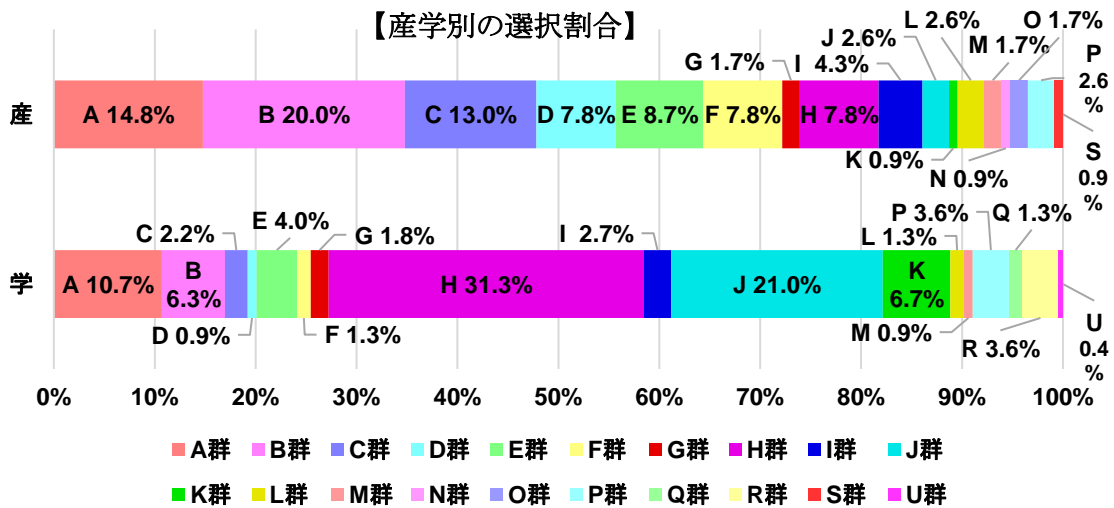
(1-8) 偶然/閃きが契機となってもたらされた成果(貢献)について(複数選択可) (73 件の回答)



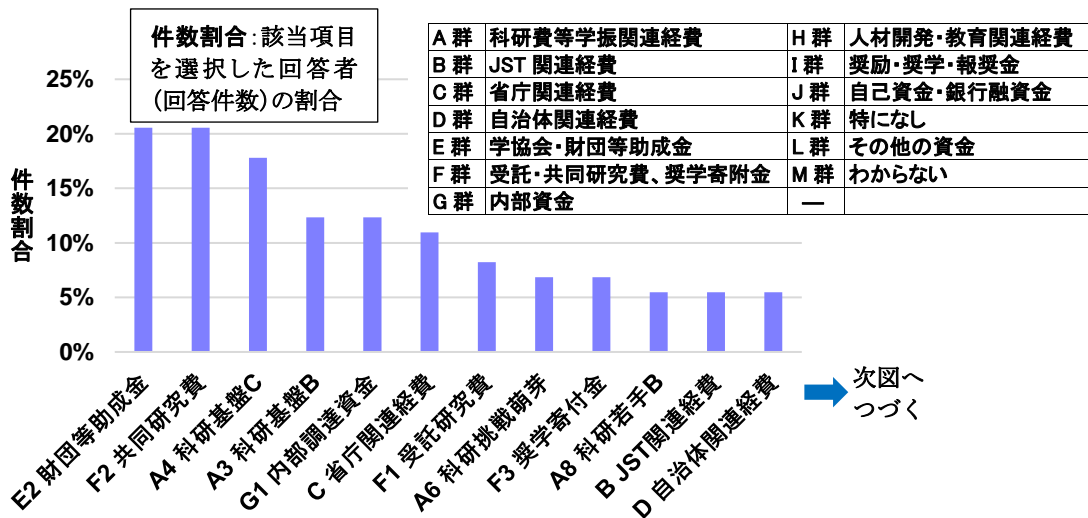


円グラフ  
記号:成果群記号(下表参照)  
選択割合:全回答者の成果総数(延べ393件)に対する該当項目群の選択割合

A群	発明、特許出願、特許権利化	L群	人材雇用・育成・教育
B群	試用、試作、製品開発	M群	顧客獲得、販路拡大
C群	実用、実装、販売	N群	クレーム解決
D群	工程導入、効率化、工程改善	O群	業務改善、作業改善
E群	商品化、プロジェクト化	P群	共同研究化、組織展開
F群	量産、事業化	Q群	教育改善、教育開発
G群	プレスリリース、情報誌掲載	R群	学位取得、資格取得
H群	講演、展示、学会発表、国際会議	S群	特になし
I群	紀要、技報、社報、執筆	T群	その他
J群	論文誌掲載、国際誌掲載、著作	U群	わからない
K群	受賞、褒賞、報奨金	—	—

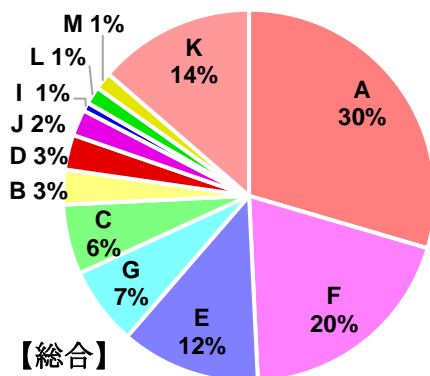
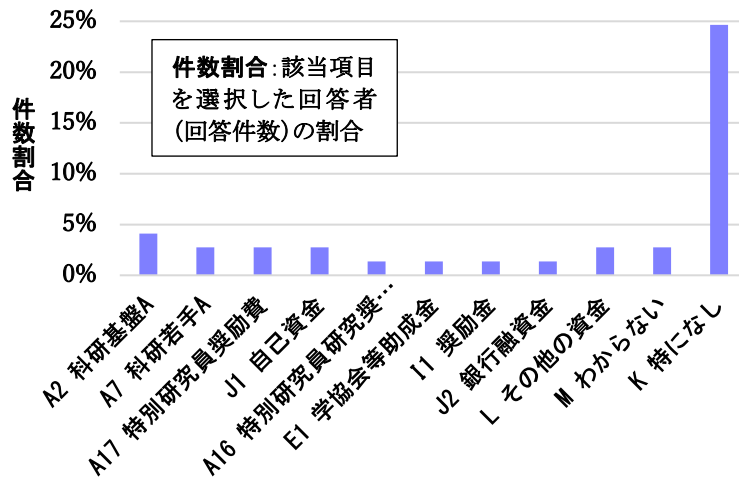


(1-9) 偶然/閃きが契機となって獲得した競争的資金等について(複数選択可) (73件の回答)



A群	科研費等学振関連経費	H群	人材開発・教育関連経費
B群	JST関連経費	I群	奨励・奨学・報奨金
C群	省庁関連経費	J群	自己資金・銀行融資金
D群	自治体関連経費	K群	特になし
E群	学協会・財団等助成金	L群	その他の資金
F群	受託・共同研究費、奨学寄付金	M群	わからない
G群	内部資金	—	—

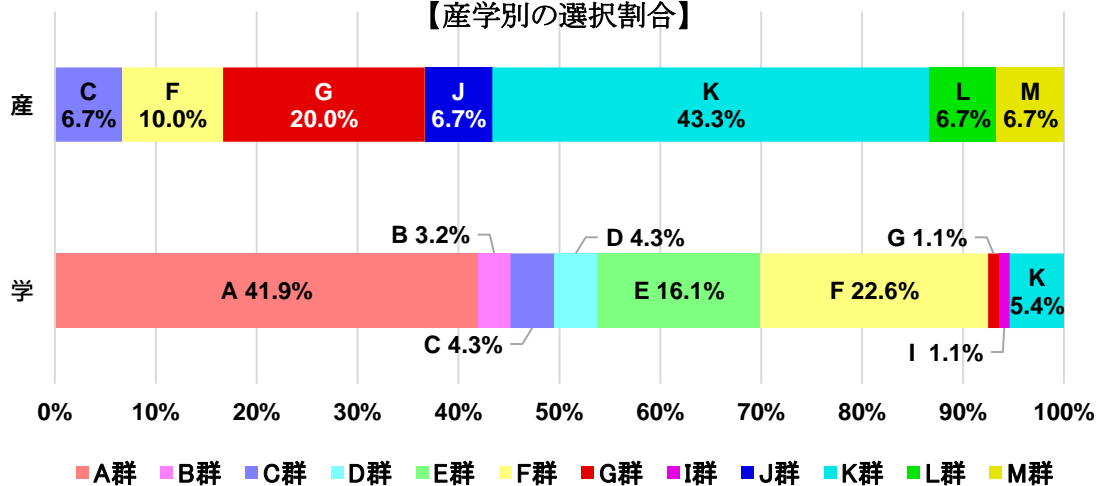
次図へ  
つづく



A 群	科研費等学振関連経費	H 群	人材開発・教育関連経費
B 群	JST 関連経費	I 群	奨励・奨学・報奨金
C 群	省庁関連経費	J 群	自己資金・銀行融資金
D 群	自治体関連経費	K 群	特になし
E 群	学協会・財団等助成金	L 群	その他の資金
F 群	受託・共同研究費、奨学寄附金	M 群	わからない
G 群	内部資金	—	—

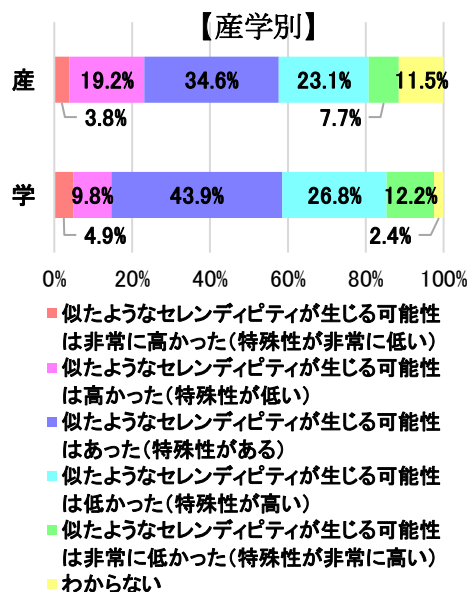
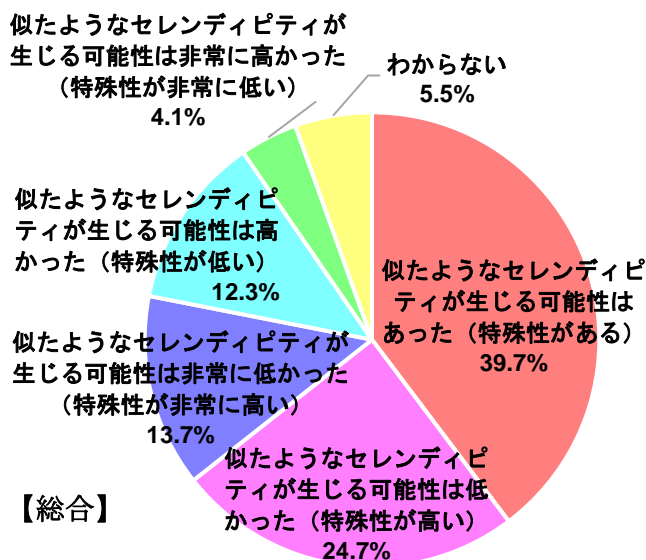
円グラフ  
記号: 成果群記号(上表参照)  
選択割合: 全回答者の成果総数(延べ132件)に対する該当項目群の選択割合

【産学別の選択割合】



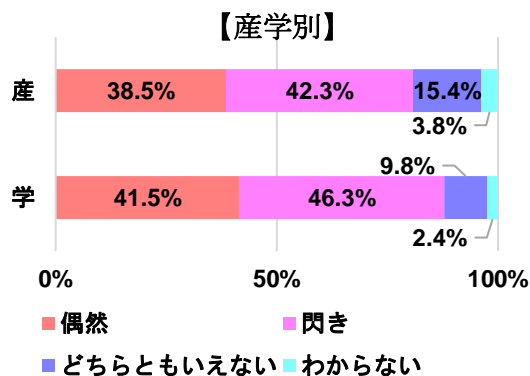
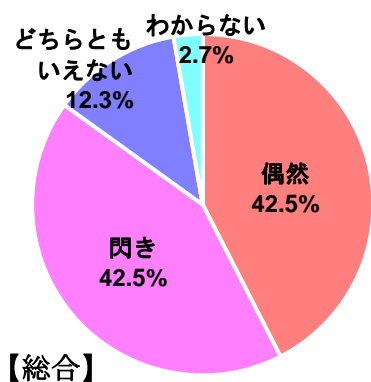
A 群	科研費等学振関連経費	H 群	人材開発・教育関連経費
B 群	JST 関連経費	I 群	奨励・奨学・報奨金
C 群	省庁関連経費	J 群	自己資金・銀行融資金
D 群	自治体関連経費	K 群	特になし
E 群	学協会・財団等助成金	L 群	その他の資金
F 群	受託・共同研究費、奨学寄附金	M 群	わからない
G 群	内部資金	—	—

(1-10) 回答対象のセレンディピティの特殊性(自身の組織外で類似のセレンディピティが発生する可能性)について (73 件の回答)



(1-11) 対象としたセレンディピティの内容 (偶然/閃きの実際) について (任意、非公開) (39 件の回答)

(1-12) 対象としたセレンディピティは「偶然」ですか、それとも「閃き」ですか。 (73 件の回答)



(参考) 選択肢番号(1~5)を入力変数とした各設問間の相関係数

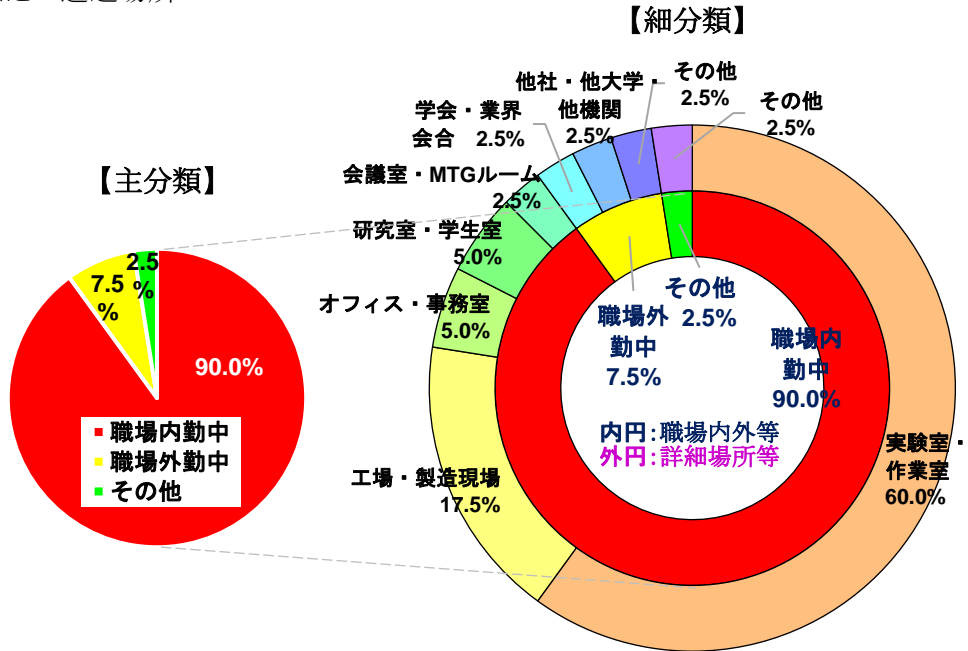
設問	(1-4)	(1-5)	(1-7)	(1-8)	(1-9)	(1-10)
(1-4)	1					
(1-5)	0.27	1				
(1-7)	0.40	0.70	1			
(1-8)	0.40	0.28	0.20	1		
(1-9)	0.26	0.28	0.25	0.52	1	
(1-10)	0.36	0.42	0.40	0.21	0.14	1

【相関関係】  
 0~0.2: 相関なし  
 0.2~0.4: 弱い相関  
 0.4~0.7: 中程度の相関  
 0.7~1: 強い相関

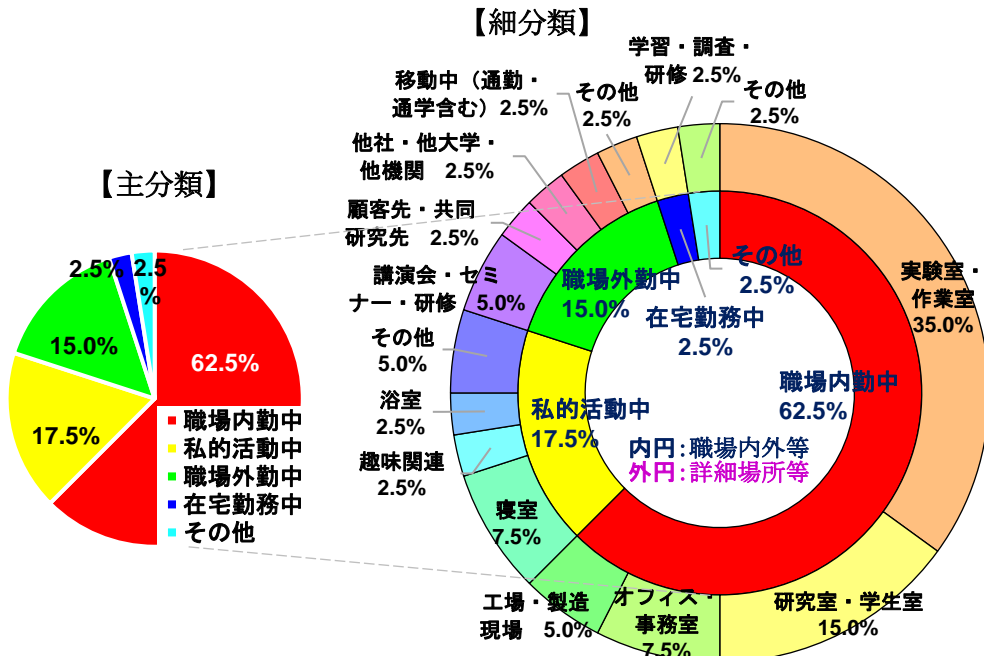
質問(2)「偶然\*2」と質問(3)「閃き\*3」に関わる具体的内容について(偶然・閃きの比較表示)

(各 40 件、延べ 80 件の回答)

(2-1) 偶然との遭遇場所

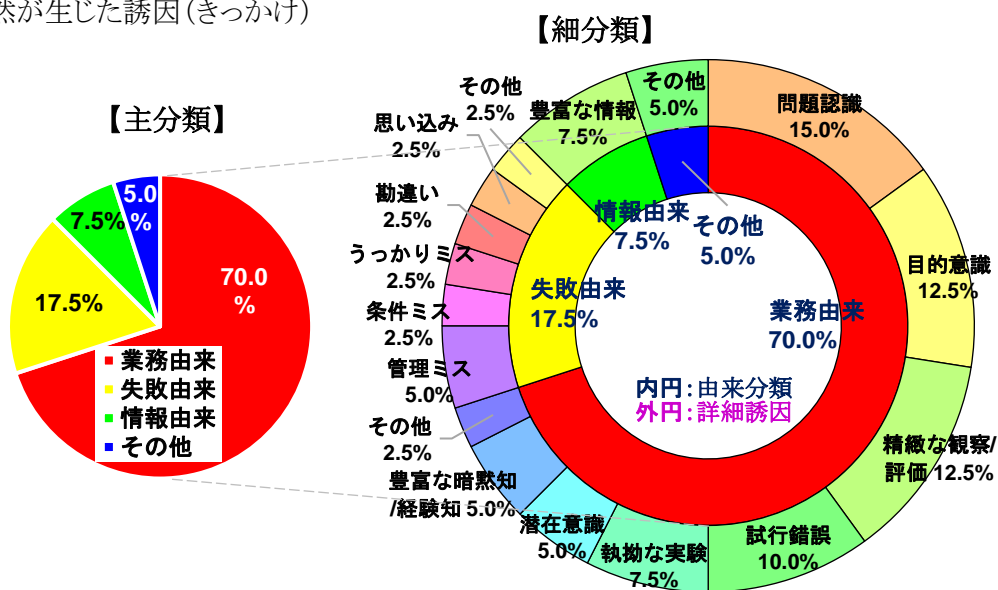


(3-1) 閃きが生じた場所

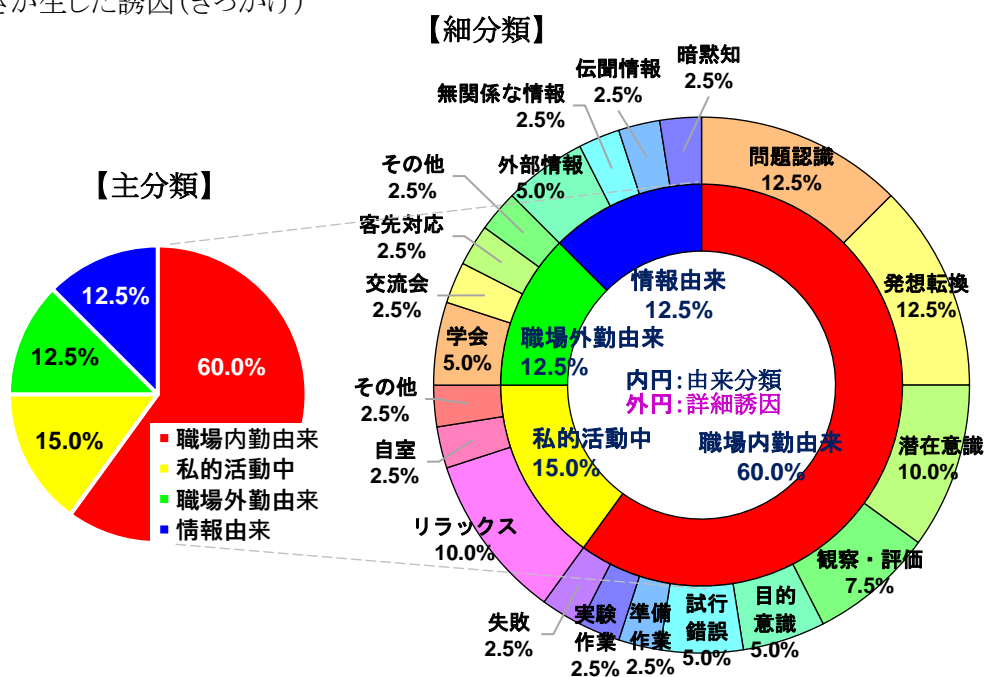




(2-2) 偶然が生じた誘因(きっかけ)

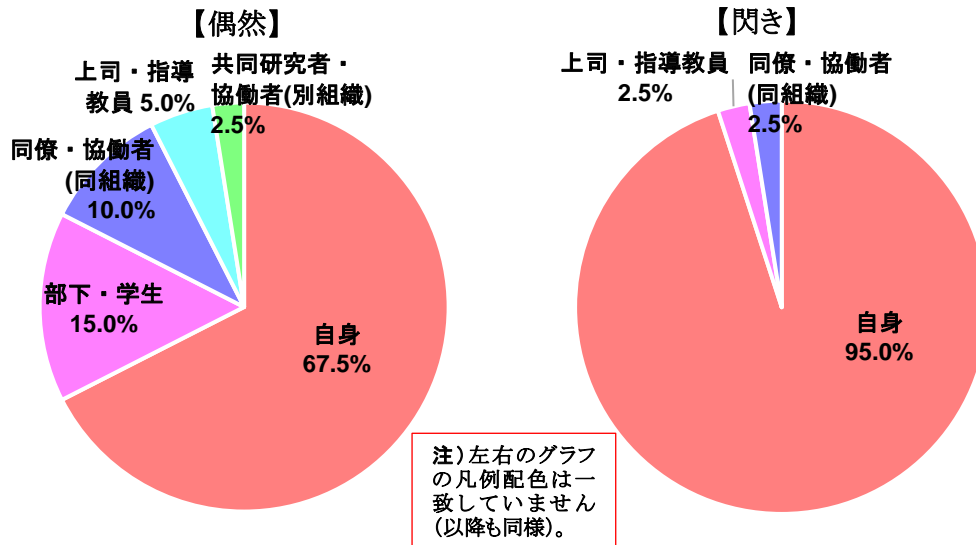


(3-2) 閃きが生じた誘因(きっかけ)

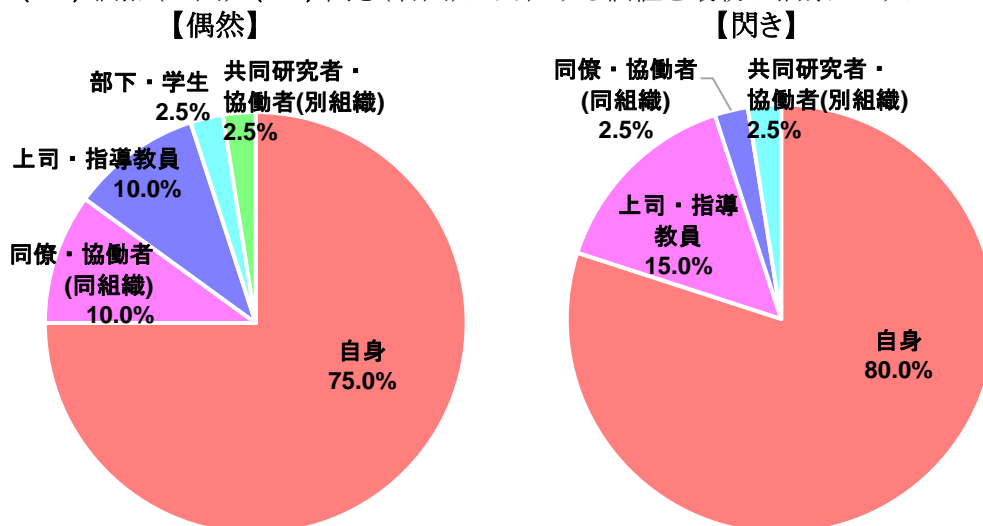


- \*1 「セレンディピティ」とは、偶然や閃きが重要な契機となり、その結果に着目して価値あるものを見つけること。
- \*2 「偶然」とは、人の外界で偶発的に生じる想定外の事象(眼前の事実)のこととする(人は偶然を洞察し発見に至る)。例えば、実験・観察等の実務(仮説検証)中に生じた「偶然」の事象に着眼/洞察し、その後に発見/発明に至る。
- \*3 「閃き」とは、人の内外界での刺激(事象、潜在意識)から偶発的に生じる啓示のこととする(人は偶然のトリガーで閃きを得る)。例えば、思考・瞑想等の活動(仮説構築)中に何らかの触発により「閃き」を得て、瞬時に着想/発見に至る。

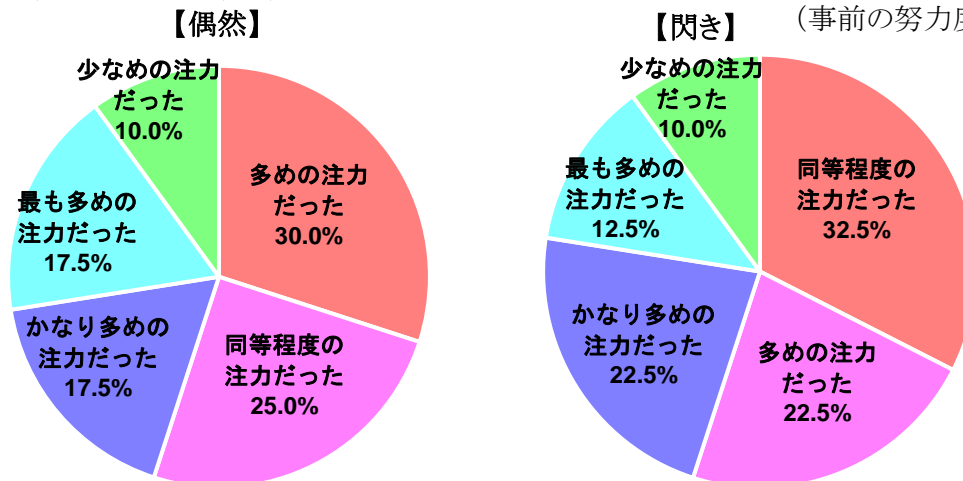
(2-3) 偶然(左図)・(3-3) 閃き(右図)に遭遇した当事者(最初に違和感を察知した人)



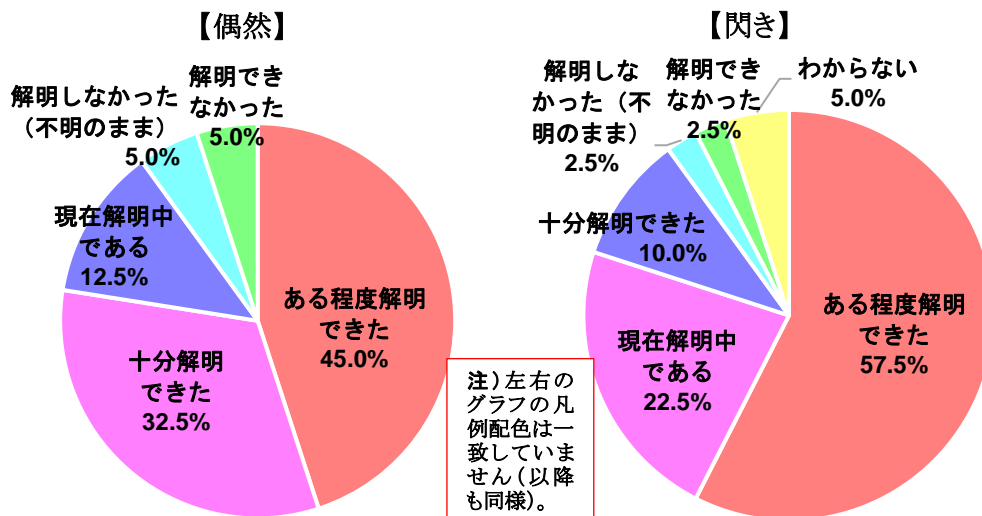
(2-4) 偶然(左図)・(3-4) 閃き(右図)に内在する価値を最初に洞察した人



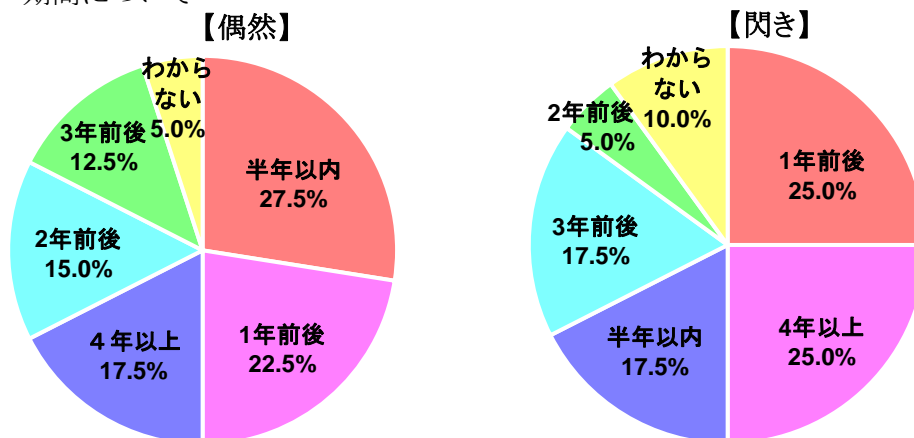
(2-5) 偶然(左図)・(3-5) 閃き(右図)に遭遇する以前に当該業務へ注力した度合い(事前の努力度)



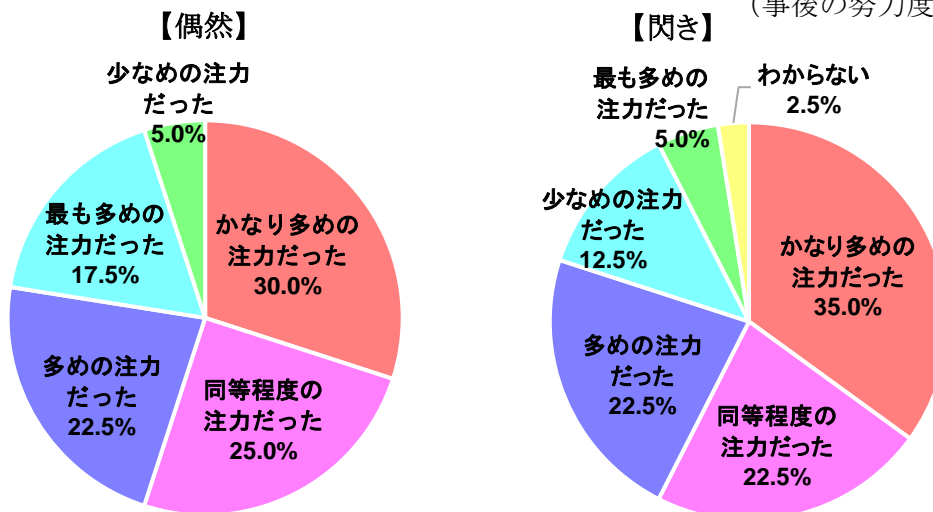
(2-6) 偶然(左図)・(3-6) 閃き(右図)に潜在する真理の全容解明について



(2-7) 偶然(左図)・(3-7) 閃き(右図)に潜む真理の全容解明に要した(または、要している)期間について

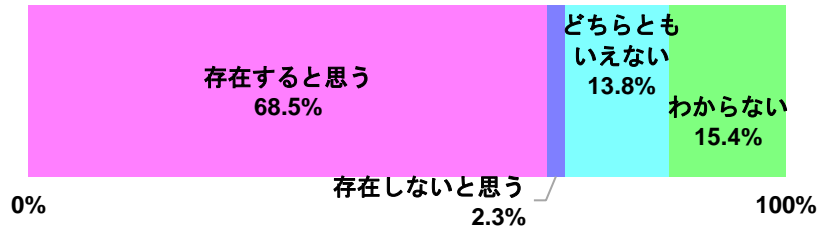


(2-8) 偶然(左図)・(3-8) 閃き(右図)に遭遇した以後に当該業務へ注力した度合い(事後の努力度)

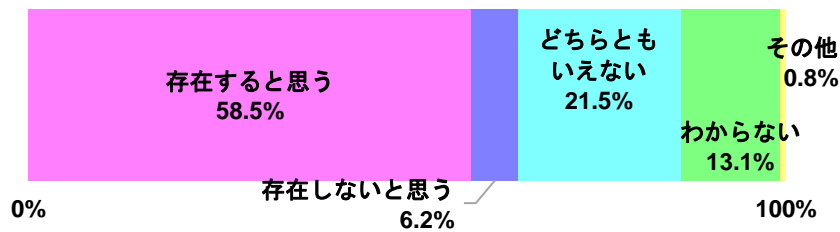


質問(4) セレンディピティ人材及び組織マネジメントに関わる内容について (130 件の回答)

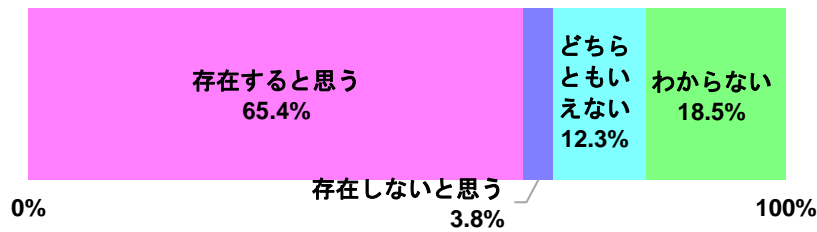
(4-1) セレンディピティを引き寄せる個人の存否について



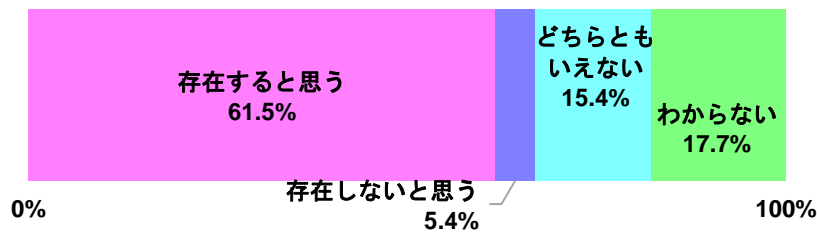
(4-2) セレンディピティを誘発させる組織の存否について



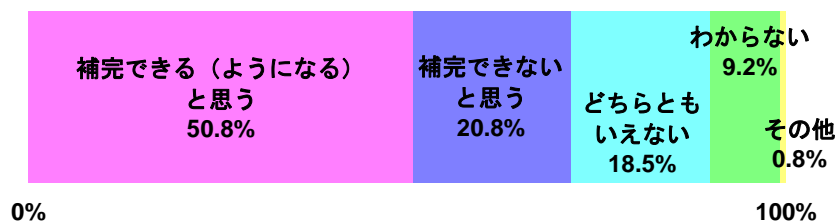
(4-3) セレンディピティを引き寄せるために有効な個人の活動(マネジメント)の有無について



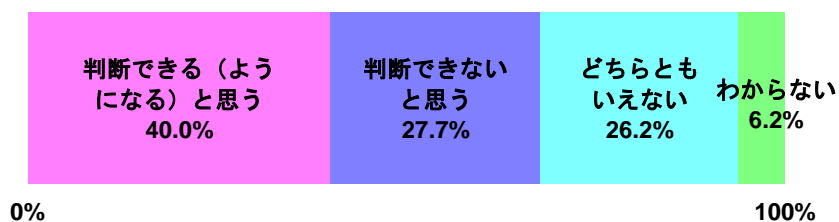
(4-4) セレンディピティを誘発させるために有効な組織の活動(マネジメント)の有無について



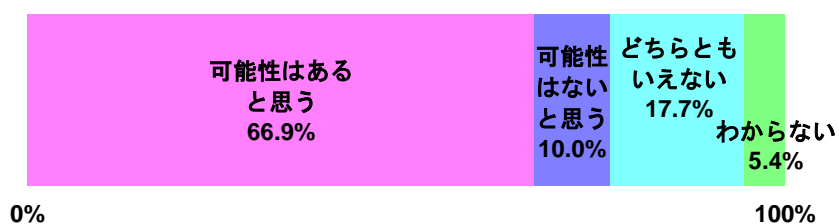
(4-5) 「創造」の一部分である「発想」のプロセスを、AIが補完できる(ようになる)と思いますか。



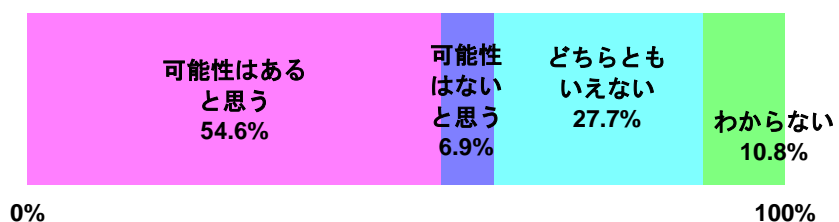
(4-6) 複数の発想の中から、AI が最終案を判断(選択)できる(ようになる)と思いますか。



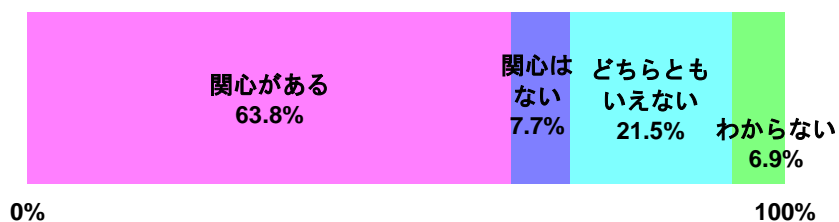
(4-7) 「偶然」や「閃き」の契機を経ずに意外な発見や創造に至るといふ、「AI と人との共創」の可能性について、どのように思いますか。



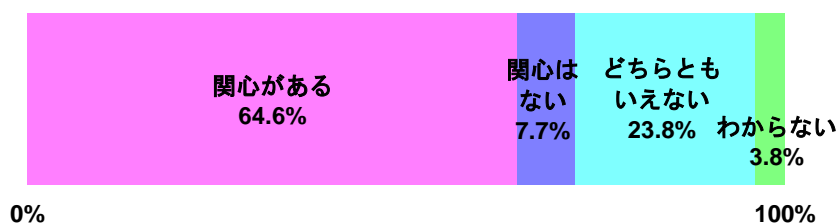
(4-8) 「セレンディピティの意図的(能動的)創出」の可能性について、どのように思いますか。



(4-9) セレンディピティを引き寄せる人のコンピテンシーに関心はありますか。



(4-10) セレンディピティを誘発する組織の体制や風土に関心はありますか。



アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

セレンディピティ創造ネット運営委員会

**SCNet**

**【実施責任者・問合せ先】**

砥粒加工学会専門委員会「セレンディピティ創造科学ネットワーク」運営委員会

委員長 森田昇(千葉大学グランドフェロー 名誉教授)

運営委員会代表メール: [jsatscsn@gmail.com](mailto:jsatscsn@gmail.com)、または大学メール: [nmorita@chiba-u.jp](mailto:nmorita@chiba-u.jp)

■本専門委員会の令和5年度活動報告として、本委員会内で施行した「セレンディピティの実態に係る先行事前アンケート調査分析結果」が、学会 HP(下記 URL)に掲載されていますので、あわせてご参考頂けましたら幸いです。

本会 URL: <https://www.jsat.or.jp/subcommit/11/report>

以上